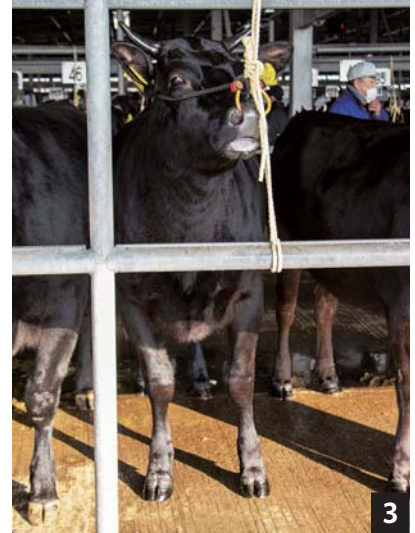




1_ 緊張した面持ちで自身の順番を待つ嵐太郎さん 2_ 遠方からも訪れる買い手は真剣な眼差しで牛を見定めます 3_ セリに合わせて特製の鼻輪を付けた嵐太郎さん自慢の牛 4_ セリを待つ牛たちがズラリと並びます 5_ セリ市の前日、感謝の気持ちを込めて牛の身体を洗い爪も油で磨き上げます



結果は、出品した5頭全てがせり落とされ、その中の1頭は150万を超える値が付

1月21日(木)、『第4回育成牛(妊娠牛)せり市』に嵐太郎さんは、初めて5頭出品しました。「とても緊張して、午前3時に起きちゃいました」と嵐太郎さん。午前9時半から始まったせり市では、この日419頭の内、131頭の育成牛が出品され、多くの買い手が集まりました。

師匠と呼ぶ近隣の先輩方に、様々なことを教わりながら、日々学んでいます。
初めて挑むせり市
曾於地区の牛のせり市は、曾於市にある曾於中央家畜市場で行われます。そこでは、子牛や成牛、妊娠牛などのせりが行われ、県内はもちろんのこと、全国各地から買い手が訪れます。

順番にせりが行われる中、嵐太郎さんの牛のせりが始まりました。緊張した面持ちで牛を会場中央に引き、買い手に自慢の牛を披露する嵐太郎さん。
大崎町の畜産の未来を担う一人として、第一歩を踏み出した嵐太郎さんの挑戦は続きます。

「僕は機械の導入や効率性が上がる経営手法を学び、それを取り入れることで、畜産のイメージを変えていきたいと思っています。そして良い牛を育てる技術を磨き、自分の農場を広げていきたいです。将来の夢は1万頭規模の農場を経営することです」と力強く話してくれました。
畜産農家戸数が減少する中、20歳で新規就農し、初めてのせり市に挑戦した嵐太郎さん。

くなど、最高の結果となりました。
「とても緊張して心臓がバクバクしましたが、初めてのせり市でこのような結果がでて素直に嬉しいです」と嵐太郎さんは満面の笑みを浮かべました。
今後の目標
嵐太郎さんに今後の目標を聞きました。